

令和 5 年度（2023 年度）

事業報告書

令和 7 年（2025 年）3 月

熊本県水産研究センター

（熊本県上天草市大矢野町中 2450-2）

目次

事業の要旨	1
総務一般	
機構および職種別人員	9
職員の職・氏名	9
職員の転出	10
企画情報室	
水産業広報・研修事業	11
水産研究センター研究評価会議および水産研究推進委員会の開催	13
漁業者専門研修事業（漁業者セミナー）	16
水産業改良普及事業	18
資源研究部	
資源評価調査Ⅰ（水産資源調査・評価）	19
資源評価調査Ⅱ（沖合海洋観測および卵稚仔調査）	22
資源評価調査Ⅲ（ガザミ有明海資源評価）	25
沿岸資源動向調査（浮遊期仔稚魚類の出現状況調査）	29
内水面モニタリング調査事業Ⅰ（アユ資源動向調査）	33
内水面モニタリング調査事業Ⅱ（ウナギ資源動向調査）	39
外部資金活用事業Ⅰ（国際水産資源変動メカニズム等解析事業）	41
水産研究イノベーション加速化事業Ⅰ（八代海タチウオ等生態解明共同研究）	43
スマート沿岸漁業推進事業（ICTを利用した漁業技術開発事業のうちスマート沿岸漁業推進事業）	55
有明海・八代海再生事業Ⅰ（クルマエビの放流効果調査）	59
有明海・八代海再生事業Ⅱ（ガザミの放流効果調査）	64
有明海・八代海再生事業Ⅲ（マコガレイの放流技術開発）	69
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅰ（マダイ、ヒラメ、ガザミの放流効果把握）	79
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅱ（いわし機船船曳網漁業の操業状況調査）	80
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅲ（栽培漁業の推進）	83
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅳ（トラフグの放流効果把握）	87
養殖研究部	
養殖生産安定技術開発事業Ⅰ（クルマエビ類の急性ウイルス血症診断方法の改善）	91
養殖生産安定技術開発事業Ⅱ（マガキ種苗生産）	94
ブリ人工種苗量産技術開発試験	98
クマモト・オイスター安定生産技術開発試験	104
ブリ親魚養成・採卵技術開発試験	106
クマモト・オイスター養殖業事業化促進事業	110
安全安心な養殖魚づくり事業	112

浅海干潟研究部

球磨川河口域アサリ漁場低塩分化影響調査事業（漁場塩分調査）	117
有明海・八代海赤潮等被害防止対策事業Ⅰ（八代海漁場環境調査）および赤潮対策事業（赤潮定期調査）	121
有明海・八代海赤潮等被害防止対策事業Ⅱ（夏季赤潮調査）	126
有明海・八代海赤潮等被害防止対策事業Ⅲ（冬季赤潮調査）	134
漁場環境モニタリング事業Ⅰ（浅海定線調査および内湾調査）	138
漁場環境モニタリング事業Ⅱ（自動海況観測ブイによる観測）	144
漁場環境モニタリング事業Ⅲ（有明海における貧酸素水塊の一斉観測）	149
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅰ（野外培養試験による育種素材の高水温耐性調査）	151
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅱ（ノリ養殖の概況）	156
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅲ（ノリ養殖漁場海況観測調査）	162
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅳ（ノリ漁場で増殖したシオグサ属について）	169
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅴ（低比重耐性株の再選抜）	173
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅵ（高水温耐性株の養殖試験）	175
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅰ（アサリ生息状況調査）	179
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅱ（アサリ浮遊幼生調査）	
および有明海・八代海再生事業Ⅰ（有明海特産魚介類生息環境調査：二枚貝浮遊幼生ネットワーク調査）	184
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅲ（ハマグリ生息量調査）	187
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅳ（球磨川河口域におけるハマグリ浮遊幼生および着底後の生息状況調査）	191
外部資金活用事業Ⅱ（ハマグリ人工種苗生産技術を活用した資源増殖法の開発事業）	193
外部資金活用事業Ⅲ（水産養殖漁場赤潮等広域監視システム技術開発事業）	201
有明海・八代海再生事業Ⅱ（有明海特産魚介類生息環境調査：アサリ資源重点保護対策）	205
有明海・八代海再生事業Ⅲ（有明海特産魚介類生息環境調査：ハマグリ資源重点保護対策）	210
有明海・八代海再生事業Ⅳ（有明海漁業振興技術開発事業：タイラギ人工種苗中間育成試験）	
および有明海特産魚介類生息環境調査：タイラギ母貝団地造成試験）	214
有明海・八代海再生事業Ⅴ（有明海漁業振興技術開発事業：アサリ人工種苗放流技術開発試験）	221
県産アサリ資源回復事業（特別回復区域におけるアサリ資源回復実証試験）	224

食品科学研究部

水産物安全確保対策事業（エライザ法による麻痹性貝毒定期モニタリング調査）	229
水産物付加価値向上事業Ⅰ（オープンラボを活用した加工指導）	233
水産物付加価値向上事業Ⅱ（県産魚介類の旬調査）	234
海藻類総合対策事業Ⅰ（ヒトエグサ養殖技術安定化試験）	237
海藻類総合対策事業Ⅱ（ワカメ養殖技術指導）	240
海藻類総合対策事業Ⅲ（スジアオノリ養殖試験）	242
海藻類総合対策事業Ⅳ（トサカノリ養殖試験）	244
海藻類総合対策事業Ⅴ（天草西海藻場モニタリング調査）	246
海藻類総合対策事業Ⅵ（軍ヶ浦地先藻場造成効果調査）	248
天草西地区水産環境整備事業藻場効果調査	250

水産研究イノベーション加速化事業Ⅱ（水産物差別化試験　ワカメ優良系統選抜試験）	252
水産研究イノベーション加速化事業Ⅲ（食害対策試験）	255
令和5年度の主な研究成果	257

事業の要旨

事業名	頁	予算名	要 旨
企画情報室			
水産業広報・研修事業	11	水産業広報・研修事業費	広報事業として、水産研究・普及合同報告会、研修センターの運営、県ホームページで事業報告書等の情報提供を実施。また、研修事業では、研究職員の資質向上のための研修参加、学生等を対象とした教育研修や県民等への一般研修の受け入れを実施した。
水産研究センター研究評価会議および水産研究推進委員会の開催	13	水産業広報・研修事業費	水産研究センター研究評価会議および水産研究推進委員会を開催し、研究の効果的かつ効率的な推進の見地から研究計画と研究成果に対する評価を行った。
漁業者専門研修事業（漁業者セミナー）	16	令達	「漁業士養成講座」、「被覆網によるあさりの資源管理」をテーマとした漁業者セミナーを開催した。
水産業改良普及事業	18	令達	漁業者への技術普及を促進するため、普及事業関係会議等の企画や水産業普及指導員との連携強化を図った。また、普及指導員の普及活動状況を紹介する「水産普及活動情報」を配信し、情報の共有化を図った。
資源研究部			
資源評価調査Ⅰ（水産資源調査・評価）	19	試験調査事業	我が国周辺水域の漁業資源評価のため、水産庁からの委託により、漁獲量調査および精密測定調査を実施した。
資源評価調査Ⅱ（沖合海洋観測および卵稚仔調査）	22	試験調査事業	我が国周辺水域の漁業資源評価のため、水産庁からの委託により、沖合海洋観測および卵稚仔調査を実施した。
資源評価調査Ⅲ（ガザミ有明海資源評価）	25	試験調査事業	我が国周辺水域の漁業資源評価のため、水産庁からの委託により、本県における対象魚種である有明海のガザミについて、漁業の概要に関する調査、生物学的特性に関する調査、資源状態に関する調査を実施した。
沿岸資源動向調査（浮遊期仔稚魚類の出現状況調査）	29	試験調査事業	本県沿岸域における有用魚介類の資源状態を把握するため、有明海・八代海・天草海における仔稚魚類の出現状況を調査した。
内水面モニタリング調査事業Ⅰ（アユ資源動向調査）	33	試験調査事業	球磨川におけるアユの実態を把握するため、稚アユの遡上動向および仔アユの流下動向に関する実態調査を実施した。
内水面モニタリング調査事業Ⅱ（ウナギ資源動向調査）	39	試験調査事業	ニホンウナギの資源管理方策立案につながる知見を得るため、主要漁場において漁獲情報を収集して資源動向を把握した。
外部資金活用事業Ⅱ（国際水産資源変動メカニズム等解析事業）	41	外部資金活用事業	ニホンウナギの産卵回遊経路を解明するため、産卵場に向かう直前の銀ウナギ採捕、衛星タグ装着および追跡調査を試みた。

事業名	頁	予算名	要 旨
水産研究イノベーション加速化事業Ⅰ（八代海タチウオ等生態解明共同研究）	43	水産研究イノベーション加速化事業	八代海におけるタチウオおよびカタクチイワシ資源の持続的活用手法を提示するため、大学等と連携して本県周辺海域の移動状況を把握した。また、タチウオ漁獲特性および年齢別漁獲尾数を利用した資源量推定を行った。
スマート沿岸漁業推進事業（ICTを利用した漁業技術開発事業のうちスマート沿岸漁業推進事業）	55	スマート沿岸漁業推進事業	九州大学等との共同研究により、漁船をICT化して7日先までの漁場形成を予測する技術を開発し、計画的な漁船漁業経営等を実現するため、漁業者参加型の観測体制整備を行った。
有明海・八代海再生事業Ⅰ（クルマエビの放流効果調査）	59	令達	有明海のカクルマエビ資源回復のため、サイズの異なる種苗や簡易馴致による放流効果を、DNAを用いた親子判別により算定した。
有明海・八代海再生事業Ⅱ（ガザミの放流効果調査）	64	令達	有明海のカザミ資源回復のため、有明海沿海4県が連携し、DNAを用いた親子判別による種苗放流効果調査を実施した。
有明海・八代海再生事業Ⅲ（マコガレイの放流技術開発）	69	令達	有明海のカコガレイ資源回復のため、県内産等の親魚を用いた種苗放流を行い、追跡調査を実施した。
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅰ（マダイ、ヒラメ、ガザミの放流効果把握）	79	令達	マダイ、ヒラメ、ガザミの資源管理型漁業を推進するため、市場に集荷された漁獲物を調査し、資源管理（体長制限等）の取組状況を確認した。
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅱ（いわし機船船曳網漁業の操業状況調査）	80	令達	カタクチイワシの資源管理に関する基礎資料を得るため、八代海におけるいわし機船船曳網漁業の操業状況を調査した。
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅲ（栽培漁業の推進）	83	令達	熊本県栽培漁業地域展開協議会が主体となって実施するマダイ、ヒラメ、イサキの種苗放流効果を把握するため、市場に集荷された漁獲物を調査し、放流種苗の混入状況を把握した。
さかなを守り育む豊かな海づくり事業Ⅳ（トラフグの放流効果把握）	87	令達	天草漁業協同組合がトラフグの種苗放流を実施するにあたり、種苗育成中の飼育方法、ALC染色、放流場所の選定、放流作業等について指導するとともに、放流効果調査（標識魚の再捕調査）等を行った。
養殖研究部			
養殖生産安定技術開発事業Ⅰ（クルマエビ類の急性ウイルス血症診断方法の改善）	91	試験調査事業	国が報告したPAVワクチンの効果を確認するため、クルマエビ養殖場で現場試験を実施した。
養殖生産安定技術開発事業Ⅱ（マガキ種苗生産）	94	試験調査事業	熊本県海域に生息するマガキを親貝に用いたシングル・シード養殖技術の開発に取り組んだ。

事業名	頁	予算名	要 旨
ブリ人工種苗量産技術開発試験)	98	ブリ人工種苗量産技術開発試験	天然種苗に依存しているブリ養殖業の現状に対し、人工種苗によるブリ完全養殖実現のため、ブリ人工種苗の量産技術開発に取り組んだ。
クマモト・オイスター安定生産技術開発試験	104	クマモト・オイスター安定生産技術開発試験	クマモト・オイスター（標準和名：シカメガキ）の親貝養成技術を開発するとともに、開発した親貝を種苗生産用親貝として公益財団法人くまもと里海づくり協会へ提供した。
ブリ親魚養成・採卵技術開発試験	106	ブリ親魚養成・採卵技術開発試験	ブリ完全養殖実現のためには、自県用の受精卵を安定的に確保する必要があることから、ブリ親魚養成技術および採卵技術の確立に取り組んだ。
クマモト・オイスター養殖業事業化促進事業	110	令達	クマモト・オイスターの産業化を進めるためには生産コストの削減が必要である。このため、一回の種苗生産でより多くの稚貝を生産し、種苗生産期間を短縮できるよう、幼生飼育時の高密度飼育試験に取り組んだ。
安全安心な養殖魚づくり事業	112	令達	安全な養殖水産物の生産を推進し、消費者の安心を確保するため、養殖魚の疾病予防等に使用される水産用ワクチンや水産用医薬品の適正使用を指導するとともに、養殖魚等の魚病診断を実施した。

浅海干潟研究部

球磨川河口域アサリ漁場低塩分化影響調査事業（漁場塩分調査）	117	試験調査事業	母貝団地として期待される八代海各地先の梅雨時期の塩分動向を把握し、球磨川流量と令和2年度（2020年度）被害発生時に調査した八代市鏡地先のデータを基に、母貝団地設置場所の候補地を選定するための漁場塩分調査を行った。
有明海・八代海赤潮等被害防止対策事業Ⅰ（八代海漁場環境調査）および赤潮対策事業（赤潮定期調査）	121	試験調査事業	八代海における環境特性と有害プランクトンの発生動向や生態を明らかにするため、水質と有害プランクトン等組成の周年モニタリングを行った。
有明海・八代海赤潮等被害防止対策事業Ⅱ（夏季赤潮調査）	126	試験調査事業	熊本県有明海域において、赤潮発生や貧酸素水塊等による漁業被害の軽減に資するため、同海域の水質やプランクトンの発生量等の環境調査を実施した。
有明海・八代海等赤潮被害防止対策事業Ⅲ（冬季赤潮調査）	134	試験調査事業	有明海や八代海のノリ養殖に色落ちの被害をもたらすプランクトンの動向を調査するため、10月～2月に水質やプランクトンの発生を調査した。
漁場環境モニタリング事業Ⅰ（浅海定線調査および内湾調査）	138	試験調査事業	有明海および八代海における水質調査（水温、塩分、透明度、DO、COD、DIN、DIP 等）を、月に1回の頻度で周年にわたり実施した。
漁場環境モニタリング事業Ⅱ（自動海況観測ブイによる観測）	144	試験調査事業	ノリ養殖業、魚類養殖業、漁船漁業、採貝漁業等の生産性向上と経営安定化に資するため、自動海況観測ブイを用いた県内漁場における海況観測を行い、漁場環境の変動を把握した。

事業名	頁	予算名	要 旨
漁場環境モニタリング事業Ⅲ（有明海における貧酸素水塊の一斉観測）	149	試験調査事業	有明海における貧酸素水塊の発生状況を把握するため、7月27日に沿海4県と国立研究開発法人水産研究・教育機構等が連携して、海洋環境モニタリング観測を行った。
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅰ（野外培養試験による育種素材の高水温耐性調査）	151	試験調査事業	国立研究開発法人水産研究・教育機構西海区水産研究所が高水温選抜したアサクサノリの品種について、養殖漁場と類似し安定的な環境の野外水槽で培養試験を実施したところ、高水温耐性は高くなく、高生長株の更なる選抜が必要であることが分かった。
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅱ（ノリ養殖の概況）	156	試験調査事業	令和5年度（2023年度）は、10月27日の適水温下で採苗が開始された。有明海では、12月下旬から1月下旬まで珪藻赤潮の発生により栄養塩が低下して、葉体の色調低下が認められた。生産枚数は1,044,624,002枚（前年比115.4%）で、金額は18,300,540,352円（前年比130.4%）であった。
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅲ（ノリ養殖漁場海況観測調査）	162	試験調査事業	ノリ養殖漁場の海況および栄養塩、植物プランクトンの定点観測を行い、得られた結果を県ホームページ、FAX等を通じて、生産者や関係機関に情報提供した。
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅳ（ノリ漁場で増殖したシオグサ属について）	169	試験調査事業	令和5年漁期ノリ採苗時期の10月以降、緑川河口域においてシオグサ属の異常増殖が確認され、ノリの採苗やその後の養殖に影響が出ないか懸念されたため、消長を予測するために増殖至適温度や低塩分耐性などの生態を調査するための各種試験を行った。
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅴ（低比重耐性株の再選抜）	173	試験調査事業	河川水が大量に流入し、漁場が低比重（低塩分）化することによって起こるノリ芽の生育障害や芽流れ等による生産力の低下を軽減し、安定生産に資することを目的として、現在保有している低比重耐性候補株を新たな方法にて再選抜を行い、フリー糸状体を作成した。
環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業Ⅵ（高水温耐性株の養殖試験）	175	試験調査事業	ノリ養殖の安定生産に資することを目的として、現在の漁場環境に適応し、高水温耐性、生長や色調等が優れたノリの品種を作出するため、高水温耐性株の漁場における養殖試験を行った結果、従来株と遜色はなかった。
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅰ（アサリ生息状況調査）	179	試験調査事業	アサリ資源量を把握するため、緑川河口域および菊池川河口域でアサリ生息状況調査を実施した。緑川河口域では、前期調査で向洲の覆砂漁場で多くの生息を確認し、後期調査ではカメ洲で高密度分布を確認した。菊池川河口域では、前期調査、後期調査とも洲の南部に高密度分布を確認した。
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅱ（アサリ浮遊幼生調査）および有明海・八代海再生事業Ⅰ（有明海特産魚介類生息環境調査：二枚貝浮遊幼生ネットワーク調査）	184	試験調査事業	アサリ産卵状況を把握するため、本県の有明海・八代海沿岸主要漁場におけるアサリ浮遊幼生調査を実施した。有明海では春季は主として6月に、秋季は主として11月に発生ピークがみられた。八代海では最大で5個体/m ³ しか確認できず、ほとんど確認されなかった。

事業名	頁	予算名	要 旨
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅲ（ハマグリ生息状況調査）	187	試験調査事業	資源状況の悪化が危惧されている本県ハマグリの生息状況を緑川河口域と菊池川河口域で調査した。緑川河口域においては、向洲がハマグリの高密度生息地であることが示唆されたが、生息数は依然として少ない状況だった。
重要二枚貝資源モニタリング事業Ⅳ（球磨川河口域におけるハマグリ浮遊幼生および着底後の生息状況調査）	191	試験調査事業	ハマグリ資源管理手法の確立の基礎資料とするため、ハマグリの浮遊幼生調査および着底後の生息状況調査を実施した。球磨川河口域における浮遊幼生量は、3～5個/m ³ で依然として少ない状況が継続しているものと考えられ、成貝の生息も確認できなかった。
外部資金活用事業Ⅱ（ハマグリ人工種苗生産技術を活用した資源増殖法の開発事業）	193	外部資金活用事業	人工種苗生産技術を活用して母貝団地を造成し、ハマグリ資源増殖技術を開発することを最終目標とし、安定採卵のための調査を行った。
外部資金活用事業Ⅲ（水産養殖漁場赤潮等広域監視システム技術開発事業）	201	外部資金活用事業	養殖漁場における赤潮の発生状況を早期に把握して、被害軽減に向けた迅速な対応を行うため、有害プランクトンセンサーや赤潮カメラを組み込んだ新たな観測システムの開発に取り組んだ。
有明海・八代海再生事業Ⅱ（有明海特産魚介類生息環境調査：アサリ資源重点保護対策）	205	令達	漁業者が主体となってアサリ母貝場として保護対策を講じた保護区について、アサリの生息密度や漁場環境の調査を実施し保護効果の確認を行った結果、被覆網による保護効果が確認できた。
有明海・八代海再生事業Ⅲ（有明海特産魚介類生息環境調査：ハマグリ資源重点保護対策）	210	令達	漁業者が主体となってハマグリ母貝場として保護対策を講じた保護区について、ハマグリの生息密度や漁場環境の調査を実施し保護効果の確認を行った結果、保護区のほうが対照区に対し生息密度は高く、被覆網や耕うんの効果と考えられた。
有明海・八代海再生事業Ⅳ（有明海漁業振興技術開発事業：タイラギ人工種苗中間育成試験および有明海特産魚介類生息環境調査：タイラギ母貝団地造成試験）	214	令達	人工的に生産されたタイラギ稚貝の中間育成および産卵用母貝場造成の技術開発を行った。当センター内の陸上水槽および実験プール内囲い網で中間育成を行い、適宜、赤瀬漁港内に設置した母貝場に移送して垂下飼育し、性成熟の状況を把握した。
有明海・八代海再生事業Ⅴ（有明海漁業振興技術開発事業：アサリ人工種苗放流試験）	221	令達	本県のアサリ主要産地である緑川河口域において、人工稚貝を用いた母貝場を造成することを目的として、人工稚貝の放流時期の違いによる成長、成熟等への影響の把握を行う放流技術開発試験を実施した。
県産アサリ資源回復事業（特別回復区域におけるアサリ資源回復実証試験）	224	令達	「熊本県産あさりを守り育てる条例」の施行に伴い、特別回復区域に指定された玉名市滑石地先および玉名市大浜地先において、アサリ稚貝を漁獲サイズまで育成する実証試験を実施した。

事業名	頁	予算名	要 旨
食品科学研究部			
水産物安全確保対策事業 (エライザ法による麻痺性貝毒定期モニタリング調査)	229	試験調査事業	本県で生産される二枚貝類の麻痺性貝毒による食中毒を未然に防止するため、エライザ法および公定法によるモニタリング調査を実施した。なお、公定法の基準値を超える事象は発生しなかった。
水産物付加価値向上事業 Ⅰ（オープンラボを活用した加工指導）	233	試験調査事業	本県水産物の付加価値を向上させるため、オープンラボを活用し、水産加工品の開発、改良および衛生管理等の技術指導を実施した。なお、オープンラボの利用は、延べ15件、7品目であった。
水産物付加価値向上事業 Ⅱ（県産魚介類の旬調査）	234	試験調査事業	本県海域で漁獲されるアサリについて、グリコーゲンおよび肥満度の推移を把握し、その増減から旬を特定する試験を行った。また、サワラについて、粗脂肪等の評価の有用性を確認するため、体測および粗脂肪率の測定、肥満度の算出を行った。
海藻類総合対策事業Ⅰ (ヒトエグサ養殖技術安定化試験)	237	試験調査事業	種場のない漁場でも生産可能なヒトエグサ人工採苗技術確立するため、接合子板作製およびその効率化、人工採苗技術の安定化、高水温耐性株作出試験を実施した。
海藻類総合対策事業Ⅱ (ワカメ養殖技術指導)	240	試験調査事業	ワカメ養殖の技術向上および安定生産のため、漁業者に対し、養殖技術指導およびフリー配偶体による採苗指導を行った。
海藻類総合対策事業Ⅲ (スジアオノリ養殖試験)	242	試験調査事業	スジアオノリ養殖において、網に付着する浮泥の生長への影響を解明するため試験を行った。
海藻類総合対策事業Ⅳ (トサカノリ養殖試験)	244	試験調査事業	トサカノリの越夏条件（成熟条件）を解明するため、複数の産地のトサカノリを天草市牛深および上天草市大矢野において飼育試験を行った。
海藻類総合対策事業Ⅴ (天草西海藻場モニタリング調査)	246	試験調査事業	天草西海に位置する天草郡苓北町地先の富岡保護水面において、藻類の育成状況を把握するためのモニタリングを実施した。
海藻類総合対策事業Ⅵ (軍ヶ浦地先藻場造成効果調査)	248	試験調査事業	天草市軍ヶ浦地先において、漁業者等が取り組んでいる藻場回復試験の効果把握のためのモニタリングを実施した。
天草西地区水産環境整備 事業藻場効果調査	250	令達	水産環境整備事業（藻場造成）について、漁場整備後の効果把握のため、天草市五和地先において、施工後の海藻の生育状況を調査した。
水産研究イノベーション 加速化事業Ⅱ（水産物差別化試験 ワカメ優良系統選抜試験）	252	水産研究イノベーション加速化事業	本県海域において葉やメカブの生長の良い優良な系統を選抜することを目的とし、複数の産地のワカメから作製したフリー雌雄配偶体を用いて産地間の交配を行い、作出した各系統の種苗性を評価した。

事業名	頁	予算名	要 旨
水産研究イノベーション 加速化事業Ⅲ(食害対策 試験)	255	水産研究イ ノベーション 加速化事業	ワカメ養殖の植食性魚類による食害を低減するため、食害 防止籠を設置し、その効果を検証した。

